

# 山梨県立あけぼの医療福祉センター成人寮[アドバンテージあさひ] 平成27年度 事業報告

協会が策定した「第三次中期経営計画」（平成26年度～平成28年度）の2年目において、山梨県立あけぼの医療福祉センター成人寮（以下、「アドバンテージあさひ」という。）では、計画の目標達成のために事業等の進捗状況を検証し、更にサービス内容の充実に努めた。

平成27年度は、10年間の県の指定管理期間最終年を迎え、引き続き指定管理の指定を受けられるよう、安定した経営をめざすとともに、利用者のニーズに沿った多彩なサービスを安心安全な支援体制のもと提供してきた。その成果もあり、新たに平成28年度から5年間の指定を受けることができた。

自立(機能)訓練支援事業は、障害者支援施設で行われる県内唯一の事業ではあるが、近年介護保険事業所との競合により利用の低迷が続いている。今後も相談支援事業所等を活用し利用者確保に努めていく。

生活介護支援事業では、高齢化・重度化による利用者支援に対し機能低下や医療の関わりが増加などで、利用者の活動参加への減少は否めない。特に褥瘡や体力低下等により居室静養が増える中で、支援員の創意工夫とボランティアなど外部団体の活用によりバラエティに富んだメニューを提供してきた。

医務関係では、利用者の医療への関わりが増えてきた。入院者は昨年より増加し、入院期間も長期化してきた。また、毎日の治療や体調管理が多くなっている。引き続き利用者一人ひとりの状態にあった対応ができるようにしていきたい。

管理面では、7月に利用者の身体機能の重度化による支援員の介助負担の軽減及び腰痛防止のため床走行式電動リフトを新たに導入した。

アドバンテージあさひは、平成28年度節目の10年目を迎える。協会の理念である利用者が「笑顔とともに心豊かな人生」が送れるよう身体機能の維持・向上、生活や生きがい等あらゆるライフステージにおける様々なニーズに応えられるよう充実した支援を行っていく。

以下この一年の施設運営の概要を報告する。

自立訓練 (機能訓練) 事業支援	日常生活動作 / 社会生活訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 理学療法 理学療法士により、個々の身体状況に合せた運動療法を実施した。</li> <li>○ 作業療法 作業療法士により、個々の障害状況に合わせた書字、計算、パソコン、ペグボード、ADL（日常生活動作）訓練を実施した。</li> <li>○ 言語聴覚訓練 言語聴覚士により、週1回、個々の障害状況に合わせた個別訓練を実施した</li> <li>○ 音楽療法 日本臨床心理研究所の松井紀和氏とそのスタッフにより、月に1回実施した</li> <li>○ 調理・外出訓練 支援員により、各障害状況に合わせた訓練メニューを作成し、地域での自立生活に必要なIADL（日常生活関連動作）の獲得に向けた訓練を実施した。</li> <li>○ 体操 午前9時45分から15分間、理学・作業療法士の指導による体操を実施する。また、月に2回日本3B体操協会公認指導者の指導による「ボール」「ベル」「ベルター」という3つの手具を用い、音楽に合わせて運動する「3B体操」を継続して取り入れ、筋力強化を通しての機能低下防止に努めた。</li> <li>○ 園芸療法 月2回、園芸療法アドバイザー指導のもと、「植物を育てる」ことを中心に植物の育つ環境に関することや冬期はクリスマスツリーの飾り付けなど、様々な活動を通じて、心身機能維持・回復、生活の質の確保・向上を図った。</li> </ul>
------------------------	-----------------------	--

【別紙① 機能訓練実施状況】

自立訓練（機能訓練）事業支援	機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高次脳機能障害者等に対する理解力向上のため、パソコン（高次脳バランサー）を用いた訓練を実施し機能維持・回復に努めた。就労を意識した利用者に対しては、専門的なパソコン訓練を提供し、操作技術の習得に努めた。</li> <li>○ クイズ形式での脳トレーニングを週2回実施し、利用者の楽しみの一つとなるとともに、「考えること」による脳の活性化、「発言すること」での言語能力の向上など、機能向上及び精神面の安定に繋がった。</li> <li>○ 身体機能面においては、個々の能力に応じて歩行、握力、階段昇降等の測定を行う体力測定会を実施し、日々の訓練意欲の向上及び機能回復に努めた。</li> <li>○ ボーリング、輪投げ、フライングディスク等チームで競うスポーツ大会などの集団での訓練を通しての機能維持、向上に努めた。</li> </ul>
	地域生活移行支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 利用者及び家族の要望を反映した個別支援計画に基づき、必要な支援を提供した結果、13人（入所利用7人、通所6人）が利用期限内で訓練を終え、うち1人が家族との自宅生活、1人がアパートでのヘルパーを導入した単身での地域生活に移行した。また通所利用者のうち4人は就労継続事業所へ移行した。</li> <li>○ 地域移行を目指す利用者に対し、作業実習を計画的に実施し、就労移行业への施設移行を可能とした。また、在宅移行支援においては、家族との連携が重要であることから、自宅への外泊を積極的に促し、早い段階で地域の環境に慣れるよう、定期的に外泊訓練を計画し実施した。</li> <li>○ 通所利用者においては、自宅内の移動状況等を視察し、家庭内動作自立に向けた訓練を取り入れ、習得したことにより家族の負担軽減に繋がった。</li> <li>○ 本人が望む地域移行を計画的に支援するため、市町村や相談事業所との連携を強化し、スムーズに地域での生活に移行できるよう努めた。</li> </ul>
生活介護事業支援	日常の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個別支援計画を策定し、個々の目標に向けた支援を実施した。</li> <li>○ 工夫された創作やカラオケ等、多彩なプログラムを計画して活動を支援した。</li> <li>○ 休日等の余暇時間も有意義に過ごせるよう、外部講師を招いた楽器演奏・マジックショーを開催した他、本格的な陶芸教室にも挑戦した。</li> <li>○ 機能低下や二次障害防止のため、毎日の体操や定期的な機能訓練及び外部講師による3日体操などを実施した。</li> <li>○ 買い物や所外活動及び旅行等を実施し、潤いのある生活を提供した。</li> <li>○ ボランティアによるアニマルセラピーを行い、犬や猫とのふれあいによる情緒安定を図った。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【別紙② 生活介護事業実施状況】 【別紙③ 統計】</p>
	社会活動支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動の一貫として、買い物や映画鑑賞等の外出支援の他、県立美術館・障害者文化展の見学を行った。</li> <li>○ 利用者個人の希望による外部団体との旅行や活動への参加ができるように支援した。</li> </ul>
	趣味余暇活動	<p>華道、陶芸、園芸活動は、外部講師の指導により実施した。その他、利用者が余暇時間に楽しめることができる趣味を持てるように、パソコンやカラオケ、ビデオ映画鑑賞、パチンコ台の購入等様々な機会を提供した。また、近隣の大型ショッピングセンターで買い物や食事ができるよう支援した。</p>
	家族との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施設行事として、バーベキュー会、納涼会・福祉村祭り・年末の懇親会等への参加をご家族に呼びかけた。また、日帰り旅行への参加も呼びかけ家族との外出の機会を提供した。</li> <li>○ 可能な限り家族を対象に面談を実施し、現状での利用者状況を把握していただくとともに家族からの要望や意向等も再確認した。</li> </ul>

利用者の社会参加	地域行事への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 5月17日「交流の庭」において、山梨ベンチャーズクラブのバンド演奏が開催され軽快な音楽を楽しんだ。</li> <li>○ 地域の聴覚障害者団体が主催する定期的な交流会や日帰り旅行等に参加した。</li> </ul>
	他施設 / 地域との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ あさひワークホームと合同で、各種の行事を実施した。7月末に開催した納涼会には、地域の婦人会・老人会・子供等、総勢200人の参加があり、盆踊りや模擬店に加え、ゲストによる日本舞踊を楽しんだ。</li> <li>○ 10月実施の社会福祉村まつりでは、多くの障害者や地域住民の方々と交流した。</li> </ul>
地域支援事業	短期入所	<p>利用は32人あり、延べ利用日数は3,829日で、一日平均10.5人の利用があった。定期的な利用や長期の利用及び県外からの利用希望もあり、確実にそのニーズに応えた。支援にあたっては、障害に応じてベッドの高さを調整するとともに、介護・支援度が高い利用者については、支援職員が待機している職員室近くの居室の利用を図る等、細かな配慮に心掛け、安心して生活が送れるように努めた。</p>
利用者の健康管理 / 安全管理	健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安心安全な施設運営にとって健康管理はなにより重要なことから、日頃から利用者の健康状態には細心の注意を払い、特に高血圧など持病のある方や通所利用者の方は、体調の変化をいち早くキャッチするために、毎日のバイタルチェックを行った。</li> <li>○ 体調の不良を訴えた利用者に限らず、発熱や体調に不安がある場合には速やかに医療機関で受診するとともに、職員が情報を共有する中で回復に努めた。</li> <li>○ 服薬に関する事故を防ぐため、医務と支援員の連携を密にしつつ、個別の服薬管理を強化した。</li> <li>○ ノロウイルス、食中毒、インフルエンザ等の感染を防止するために、マニュアルに沿った対応を行った結果、一人の発症者もなく過ごすことができた。</li> <li>○ 利用者の健康管理への意識を高めていただくために、その時期にあった「健康セミナー」を実施した。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【別紙④ 医務実施状況】</p>
	食事支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 食事の提供にあたっては、栄養士の管理のもと、「個人を尊重した食事であること」「おいしい食事であること」「安心な食事であること」の考えで行った。</li> <li>○ 食事の内容は地産地消を念頭に、なるべく旬の材料・献立を重視するとともに、調理後の温かさを生かすべく迅速な配膳に努めた。</li> <li>○ 食事摂取の安全・安心のために、身体状況、疾病やアレルギーなど個人の状況を考慮して、何段階にも区分した刻み食やペースト食の提供、禁止食品の確認、減塩・低カロリーへの配慮、使いやすく安全な食器の使用、更には個人の嗜好まで反映した食事を提供した。</li> <li>○ 外食の機会の少ない利用者の楽しみを増やすため、月1回スペシャルメニューとして寿司やウナギなどの通常の給食にはない食事を提供した。</li> <li>○ カルシウム不足を補うため、給食で牛乳等がない日も施設独自で乳製品を提供した。</li> <li>○ 給食業務を委託していること、また、委託業者との窓口があげぼの医療福祉センターであることなどから、利用者の声を食事内容に反映させるため、栄養士や給食提供者、施設職員等が出席して定期的に開催する給食委員会に利用者の代表が交代で参加して、献立の内容や味加減などについて要望し献立に反映させた。また、年一回利用者への食事に関するアンケートを実施し、あげぼの医療福祉センターに報告した。</li> <li>○ 職員が食事の配膳をするにあたっては、食事用のエプロンの使用や手の洗浄など衛生管理を徹底するとともに、食事時に利用者とのコミュニケーションを図った。</li> <li>○ 年度末に行った食事に関する満足度調査では、「満足・ほぼ満足」とした回答が84%、「やや不満・不満がある」は16%の回答だった。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【別紙⑤ 給食実施状況】</p>

利用者の健康管理／安全管理	利用者の全確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事故に繋がる危険性がある行動や問題等に直面した場合、スタッフステーション内に備えたインシデント報告書及び日誌等によって、その内容を速やかに報告するよう徹底を図った。27年度の報告では、インシデント10件、事故については5件が報告され、その主な項目は転倒・無断外出・誤薬等であった。報告されたインシデント内容については、必要に応じて安全対策委員会を開いて対応策を立て、その内容を朝礼等において全職員に周知した。更に全職員による安全対策会議を月1回開催して、防止策についての検討や協議を行い、安全確保の徹底を図った。このことにより職員の事故の未然防止への意識も高まった。</li> <li>○ 利用者の安心・安全な移乗支援と支援員の腰痛予防対策として、床走行式電動リフトを導入し、操作修得に努めて活用した。</li> <li>○ 利用者に提供する行事については、職員会議で危険に繋がることを予測して、その防止策を検討協議し、行事の実施要項の中に事故に繋がる恐れのある注意すべき項目を明記して、万全の体制で実施した。</li> <li>○ 緊急時に備え、AED（自動体外式除細動器）をスタッフステーション前に設置し、全職員がAEDを確実に安全に操作できるよう繰り返しの研修を行っている。</li> </ul>															
	施設の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ホームページを速やかに更新し、施設利用促進のためのPRとリアルタイムでの事業実施状況の情報を発信した。</li> <li>○ 事業の利用契約の際、利用者及び家族には当該事業の基本方針及び支援内容をわかりやすく説明すると共に、目標達成に向けた計画に基づいた支援を行った。</li> <li>○ 年度初めのオリエンテーションでは、今年度の事業に関する説明を行うとともに、4月に開催した保護者会総会時には、施設の年度事業計画を資料として配付し、説明や質問に応じた。</li> <li>○ 個人情報の保護については、協会の定める個人情報保護規程並びに「個人情報保護マニュアル」により、適正な取扱いを行った。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【別紙⑥ 事業実施状況】</p>															
管理運営	災害時の安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アドバンテージあさひ消防計画を作成し、防災訓練及び避難訓練を計4回実施した。また、実施後に防災委員会を開催して反省を行い、更なる安全な避難方法等を検討した。</li> <li>○ 災害時の非常食については、1人あたり9食分（3日分）と飲料水9ℓを倉庫に備蓄し、非常時に備えた。</li> <li>○ 避難支援及び放送設備機器、消火器の位置確認等の慣熟度を高めるために平日の夜勤勤務入り直後の時間を利用して、シュミレーション訓練を行った。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="352 1459 1403 1791" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">実施日</th> <th style="width: 40%;">訓練内容</th> <th style="width: 40%;">備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成27年6月16日</td> <td>避 難 訓 練</td> <td>火 災 ・ 日 中 想 定</td> </tr> <tr> <td>平成27年9月1日</td> <td>総 合 防 災 訓 練</td> <td>地 震 ・ 火 災 発 生 想 定</td> </tr> <tr> <td>平成27年12月8日</td> <td>避 難 訓 練</td> <td>火 災 ・ 夜 間 想 定</td> </tr> <tr> <td>平成28年3月17日</td> <td>避 難 訓 練</td> <td>火 災 ・ 休 日 の 夕 方 想 定</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 火災想定時は、人体に無害な発煙筒を焚いて訓練した。</p>	実施日	訓練内容	備 考	平成27年6月16日	避 難 訓 練	火 災 ・ 日 中 想 定	平成27年9月1日	総 合 防 災 訓 練	地 震 ・ 火 災 発 生 想 定	平成27年12月8日	避 難 訓 練	火 災 ・ 夜 間 想 定	平成28年3月17日	避 難 訓 練	火 災 ・ 休 日 の 夕 方 想 定
	実施日	訓練内容	備 考														
平成27年6月16日	避 難 訓 練	火 災 ・ 日 中 想 定															
平成27年9月1日	総 合 防 災 訓 練	地 震 ・ 火 災 発 生 想 定															
平成27年12月8日	避 難 訓 練	火 災 ・ 夜 間 想 定															
平成28年3月17日	避 難 訓 練	火 災 ・ 休 日 の 夕 方 想 定															
苦情解決／相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 27年度は、利用者からの苦情の申し出はなかった。</li> <li>○ 利用者が、安心・安全に施設生活や訓練ができるよう、常に利用者の立場に立って施設運営を行ってきた。</li> <li>○ 利用者からの相談に対しては、プライバシーに十分配慮した中で傾聴し、言い出しやすい環境に務めた。</li> </ul>																

- 人事考課制度における職員自己業務の目標設定や実施結果の評価及び施設運営全般についての自己評価を実施して、職員の資質向上を推進した。
- 職員会議終了後、外部機関が行う研修会へ参加した職員が、講師となって行う伝達講習会や事例検討会を実施した。
- 利用者の褥瘡予防対策等のため、韮崎市立病院の専門看護師によるベッドでの横臥時や車いすでの座位時注意点など、実技とともに研修した。
- あげぼの医療福祉センターで行われるAED研修には、繰り返しの参加をし、使い方に慣れるようにしている。

○外部研修

開催期間	研修会名	場所	参加者
6月3日	社会福祉施設初任者研修	福祉プラザ(甲府)	支援員
6月2日	年金更新事務、算定基礎届け講習会	韮崎文化ホール	事務員
7月2日	医務担当現任研修	福祉プラザ(甲府)	支援員
8月12日	キャリアパス(0JTリーダー研修)	かいてらす	支援員
8月20日	腰痛予防セミナー	医師会館	支援員
9月2日	現任研修(高齢者の対応)	福祉プラザ(甲府)	支援員
9月7日	メンタルヘルスについて	戸山サンライズ(東京)	支援員
9月8日	認知症の対応について	優和福祉専門学校	支援員
9月24日	AED使用方法研修	あげぼの医療福祉センター	支援員
9月10日・14日・25日 10月6日・25日	相談支援専門員研修	自治会館	支援員
10月2日	障害サービス経営セミナー	灘尾ホール(東京)	次長
10月8~9日	接遇研修会	研修者英語センター(東京)	相談員
10月16日	腰痛予防対策講習会	人材開発センター	支援員
10月16日	マイナンバー導入講習会	自治会館	事務員
10月21日	虐待防止研修	かいてらす	支援課長
10月28日	社会福祉法人経営セミナー	灘尾ホール(東京)	所長
10月29~30日	0JTスキルアップ研修会	研修者英語センター(東京)	課長
11月5日	生活習慣病予防セミナー	ぴゅあ総合	支援員
11月11日	成年後見人制度について	韮崎保健福祉センター	支援員
11月25日	退職共済実務研修	かいてらす	事務員
11月29日	栄養管理研修	山梨学院大学	栄養士
2月26日	地域リハビリテーション研修	文学館	作業療法士

○内部研修

7月3日・10日	床走行式リフト使用研修	施設内	支援員
7月23日	救急法・緊急時の対処について	施設内	支援員
9月24日	腰痛対策セミナー メンタルヘルスについて	施設内	全職員
10月29日	社会福祉法人制度の見直しについて 腰痛防止について	施設内	全職員
11月26日	生活習慣病予防セミナー	施設内	全職員
12月24日	障害者虐待防止について 口の健康と健康づくり	施設内	全職員
1月28日	栄養管理研修より	施設内	全職員

職員  
研修

管理  
運営

管理運営	施設管理	<p>サービスの提供が円滑に行われるよう建物・施設周辺管理担当者である業務員が主体となって、施設設備の保守管理について所定の点検簿により定期的を実施した。主な内容は、建物周辺の除草作業、樹木剪定、屋根屋上排水溝清掃等を行った。</p> <p>また、随時網戸の補修や床のワックス掛け、空調機のフィルター清掃などを行い快適な施設生活が送れるようにした。</p> <p>法定の点検は、建物設備・建築物について実施した。</p> <p>・床走行式電動リフトの導入 7月</p>												
地域支援	実習生の受入れ	<p>福祉事業の内容の理解と将来の専門職としての職務に活かしていただくため、次のとおり実習生を受入れた。</p> <table border="1" data-bbox="357 747 1411 1161"> <thead> <tr> <th>実習者</th> <th>期間</th> <th>目的</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県新採用職員 福祉施設体験研修 10人</td> <td>平成27年8月3日・4日・7日</td> <td>福祉施設現場実習</td> </tr> <tr> <td>介護職員初任者研修生 3人</td> <td>平世28年1月25日～29日</td> <td>介護職員初任者研修の現場実習</td> </tr> <tr> <td>身延山大学 福祉学科3年生 1人</td> <td>平成28年2月15日～3月4日</td> <td>社会福祉援助技術現場実習</td> </tr> </tbody> </table>	実習者	期間	目的	県新採用職員 福祉施設体験研修 10人	平成27年8月3日・4日・7日	福祉施設現場実習	介護職員初任者研修生 3人	平世28年1月25日～29日	介護職員初任者研修の現場実習	身延山大学 福祉学科3年生 1人	平成28年2月15日～3月4日	社会福祉援助技術現場実習
実習者	期間	目的												
県新採用職員 福祉施設体験研修 10人	平成27年8月3日・4日・7日	福祉施設現場実習												
介護職員初任者研修生 3人	平世28年1月25日～29日	介護職員初任者研修の現場実習												
身延山大学 福祉学科3年生 1人	平成28年2月15日～3月4日	社会福祉援助技術現場実習												
	ボランティア等の受入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アニマルセラピー実施団体による利用者と動物とのふれあいの提供は、2ヶ月に1回実施していただいた。小動物にふれ合うことで利用者の精神面での安定に繋がっている。</li> <li>○ 大手損害保険会社（AIR損保ジャパン）社員の有志による車いすの補修や清掃支援及び利用者とのゲームを通じて交流等をしていただいた。</li> <li>○ 甲府柳町大神宮祭典に参加する鬼に扮した(株)吉字屋本店社員の皆様に来所していただき、節分の豆まき行事が実施できた。</li> <li>○ 地域の方々により、日頃、目にすることのできないマジックや歌謡曲を披露していただくことにより、楽しい時間を提供していただいた。</li> <li>○ 懇親会や納涼会等に地域の婦人会の皆様による日本舞踊や盆踊を披露していただいた。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【別紙⑦ 見学者・ボランティアの受け入れ状況】</p>												